



「僕が残せることは？ 僕が残したいことは？」 (7)

息子の野球チーム 優勝！！

後 則孝(うしろ・のりたか) 神戸市



な、なんと、雪が積もっている

2011年1月1日、仕事をしなくなって初めての正月。いままでは、忙しいけど楽しみであったが、今年は全然そんな気持ちにならなかった。朝と昼食を兼ねたおせち料理と雑煮を食べさせてもらったが、おいしさも、楽しさも、自分で食べるよりかは半減であった。でも、今思えば、食べさせてもらっても、酒やもちを気にせずに食べられていたあのころがまだ、よかったかな？

夕食を食べに、車で7、8分の実家に行った。子どもたちは夕食まで時間があつたので、近くのカラオケに行った。子どもたちが帰ってくると、「雪が降っている」と言った。このときは何も思っていなかったが、夕食を食べて外を見ると、な、なんと、雪が4センチも積もっていた。

「えらいこっちゃ！」

あわてて車に乗ったが、思った以上に厳しい感じであった。チェーンはあったが、僕以外は着けたことがなく、雪道に不慣れであったからだ。道路はまだ車が走っていたので、とりあえず家に向かったが、途中の坂道で車が立ち往生していたので、帰宅をあきらめて実家に戻った。急きょ泊まることになったが、子どもたちは大喜びであった。次の日の昼には、雪が溶けて家に帰れたが、ハプニングな1年の始まりとなった。

からだが右へ、右へ

6月になり、パイパップの導入に向けて入院することになった。そして、ついでに胃ろう造設の手術をすることにした。前回のALSかどうかの検査入院とは違

い、何ごとにも介助が必要で心配であった。なんと、その心配が的中したのだ。

夜の睡眠中に腰が痛くなり、ベッドの背もたれを上げてもらったのだが、僕はすぐに下ろしてもらってもりでいたが、看護婦は「これでいい？」も何も言わずにさっさと行ってしまった。しかもナースコールは手元にセットしてくれなかったの、押せないし、体も少し右に傾いていたので、時間がたつにつれて右へ右へ傾く。もうこれ以上曲がらないぐらい傾き、かろうじてベッド柵でベッドからの転落は免れたが、右のわき腹で上半身の体重を支えていたのでけっこう痛い。

近くにきた看護師を呼ぶが気づいてもらえず、2回目、3回目も気づいてもらえず、このままなのか？と思っていたら、同室の男性が気づいてくれて、看護師を呼びに行ってくれたので助かった。でも、この事件のせいで入院は今でも怖くていやだ。

胃ろうの造設手術は、麻酔のおかげでウトウトしている間に終わり、あまり痛くなかった。それよりか、事前検査の胃カメラがもう「おえー」と吐きそうでつらかった。3、4日間は痛みがあったが、しだいに小さまっていった。手術後に自分のおなかを見ると、まるで浮き輪の空気を入れるところみたいなのが付いていて、少しおもしろく見えた。パイパップは1時間ほど付けて馴れる練習をしたが、まだまだ必要なかった。約2週間、入院した。

野球合宿 車いすから.....

8月のお盆になり、三木で息子の少年野球チームの合宿があり、妻と末娘と一緒に見に行った。昨年と同じ場所だったので心配なく過ごせた。夕方の練習後にいったん宿舎に行き、子どもたちはお風呂に入る。いよいよ楽しみのバーベキューを食べに、バーベキュー場に移動するために、僕たちも子どもたちの後に続いて宿舎を出た玄関先で、な、なんと！ 事故発生

玄関を出たところで、段差が約15センチあり、右手にスロープがあったのだが、妻は早く次の場所に移動しなければと思ったみたいで、スロープも段差もすっかり忘れて、いつもより早いスピードで段差に向かって一直線。

「危ない！ 段差が！」と言う僕の声は妻に聞こえず、「ガシャン」と車椅子の前輪が段差に落ち、そのはずみで顔から前のめりに「ドシン」と車椅子から落ちてしまった。少し顔をすりむき、軽い打撲であったが、周りのお母さん方(看護士もいた)がかなり心配して病院へ行くことになったが、妻は事故のショック

で車の運転ができない。同級生のお父さんコーチに運転してもらい自宅に戻り、自宅からは父に運転してもらい病院へ行ったが、別に異常はなくてすぐに自宅に戻った。楽しみのバーベキューも食べられず、あいかわらずついていません。

「3番レフト・後」 延長戦でマウンドに
10月、今まで勝てなかった野球チームが、神戸市北区の約30チームが集まったトーナメント大会の決勝まで進んだ。しかも、会場がオリックスの2軍が試合でも使うあじさい球場で、まあまあ立派であり、電光掲示板に「3番レフト・後」とあり、とてもうれしかった。

試合は0対0で延長までいき、代打の子の初ホームランをきっかけに得点を重ねて、その裏の守備から息子が抑えピッチャーでマウンドに上がった。ドク、ドク、ドク、ドクと僕の心臓は破裂しそうなぐらい鼓動した。無事3人で抑えて、な、なんと優勝した。子どもたち、親やコーチのみんな大喜びであった。

11月の下旬になり、15チームで争っていたリーグ戦もいよいよ最終戦。3年間の少年野球としても最終戦。しかも息子のチームは1引き分けの負けなし。相手は1負けでこの最終戦の結果しだいで、優勝が準優勝が決まる試合で、これも勝利して優勝した。そして、この日は全チームの6年生の卒部式があった。3年間いろいろあった。



(現在は入院中で、連載はお休みされます)